

(別添資料1)

事業所名

放課後等デイサービス『ひまわりの家』

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8

年

9

月

15

日

法人（事業所）理念		「私たちが、未来のベースになる。」										
支援方針		定員10名の少人数制で、お子さま一人ひとりに丁寧に向き合う支援を提供する。①心のBase=どんな時もありのままを受け入れる居場所 ②成長のBase=「できた!」を積み重ねる土台 ③地域のBase=東濃地域と共に歩む場所。5領域を相互に関連づけた総合的な支援を行い、具体的な活動内容は、本人・家族と相談のうえ、アセスメントに基づく個別支援計画において一人ひとりに合わせて決定する。										
営業時間		9	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	○あり	なし
		支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	心身の健康状態の把握と、生活リズム・基本的生活習慣づくりを支える。来所ごとの健康観察を基本とし、身のまわりのことは発達段階に合わせて「自分でできた」を少しずつ増やしていく。										
	運動・感覚	からだを動かす楽しさと、感覚の育ちを支える。姿勢や粗大運動・微細運動、感覚の特性への配慮を遊びの中に無理なく取り入れ、一人ひとりの興味とペースに合わせて進める。										
	認知・行動	見通しの持ちやすい環境づくり（視覚的な手がかりの活用など）を土台に、認知の発達と行動面の育ちを支える。遊びや活動を通して、順番やルールの理解、落ち着いて取り組む力を育てる。										
	言語コミュニケーション	一人ひとりのコミュニケーション手段（ことば・カード・身ぶりなど）を尊重し、「伝わった」という経験を積み重ねる。あいさつや気持ちの表現など、日常の自然な場面を大切に支援する。										
	人間関係社会性	少人数の集団の中で、人と関わる心地よさと社会性を育てる。遊びや行事、地域との交流を通して、他者との関わりの輪を少しずつ広げていく。										
家族支援		送迎時の情報共有・連絡帳によるご家庭との連携／保護者面談（随時）／ペアレントサポートの視点での相談対応／きょうだいを含む家庭全体への配慮					移行支援		学校（特別支援学校・地域の小中高等学校）との情報共有・連携／進学・卒業後の進路を見据えた関係機関との連携／ライフステージの切り替えを見据えた支援			
地域支援・地域連携		相談支援事業所・協力医療機関・土岐市等の関係機関との連携／地域行事への参加を通じた地域とのつながりづくり					職員の質の向上		年間研修計画に基づく事業所内研修（虐待防止・身体拘束適正化・感染症対策・BCP・個別支援計画）／外部研修・資格取得の受講支援／ケース会議・定期的なキャリア面談			
主な行事等		季節の行事（お花見・七夕・夏祭り・クリスマス会・節分など）を、お子さまの様子と実施体制に合わせて計画する（実施内容・時期は変更の場合あり。季節に合わせた通常活動を含む）										